

平成26年度

北海道開発局事業概要
(事業別)

平成26年3月

国土交通省北海道開発局

< 目 次 >

1. 治水関係事業	・ ・ ・ P 1
2. 海岸事業	・ ・ ・ P 1 0
3. 道路事業	・ ・ ・ P 1 2
4. 港湾整備事業	・ ・ ・ P 2 5
5. 空港整備事業	・ ・ ・ P 2 9
6. 農業農村整備事業	・ ・ ・ P 3 2
7. 水産基盤整備事業	・ ・ ・ P 3 5
8. 官庁営繕事業	・ ・ ・ P 3 7
(参考) 北海道開発計画調査	・ ・ ・ P 3 8
(参考) 平成 2 6 年度 道路の主な開通予定	・ ・ ・ P 3 9

1. 治水関係事業

1 安全・安心な国土づくり

(1) 頻発する自然災害に備える防災対策の推進

① 千歳川流域の治水対策の推進

千歳川の治水対策は、発展の著しい道央圏の防災対策として緊急を要する重要な課題であり、平成17年4月に策定された千歳川河川整備計画に基づき、石狩川の高い水位の影響を長時間受けることに対応した堤防の整備や河道掘削及び遊水地群の整備等を推進します。



千歳川遊水地群の整備

② 石狩川流域の治水対策の推進

石狩川下流域には道都札幌市等が位置し、北海道の社会、経済の中核となっているほか、流域内の広大な農地は我が国固有数の食料供給地です。特に昭和56年8月洪水時には、甚大な浸水被害が発生しました。この戦後最大規模の洪水から石狩川下流域を防御するため、北村遊水地の整備を推進します。



北村遊水地の整備

③ 大都市地域で壊滅的な被害を防止するための治水対策の推進

洪水時に堤防が決壊すると壊滅的な被害が予想される札幌都市圏を貫流する豊平川において、流下能力不足となっている下流部の河道掘削及び河道安定化対策として老朽化した床止め改築と併せ、豊平川洪水危機管理協議会等と連携しつつ、情報共有化等ソフト対策が一体となった治水対策を推進します。



豊平川雁来地区改修

④ 堤防の緊急点検結果に基づく対策の推進

平成24年7月の九州の豪雨災害を踏まえた堤防の緊急点検結果に基づき、十勝川等において堤防の整備等の予防的な治水対策を推進します。

⑤ 多目的ダム等建設の推進

洪水から人命、財産を守り、都市用水、農業用水、発電用水の需要に対応する多目的ダム等の建設について、タ張スーパーパロダムは、平成26年度の完成に向けて、試験湛水を継続します。

平取ダム（沙流川総合開発）、新桂沢ダム及び三笠ぼんべつダム（幾春別川総合開発）、サンルダムは、早期完成に向けて引き続き事業を推進します。



タ張スーパーパロダム（本体工事）

⑥ 火山噴火等に備えた土砂災害対策の推進

噴火による大規模な災害が発生するおそれのある樽前山・十勝岳において、火山砂防事業を重点的に推進します。

上流域の土地荒廃が著しく、流出する土砂が下流域に被害を及ぼすおそれのある石狩川上流域・豊平川・札内川、近年の豪雨により被害を受けた地域において砂防事業を推進します。



樽前山・おぼっぴつ
樽前山・覚生川砂防堰堤群の整備

⑦ 河川管理施設の戦略的な維持管理・更新の推進

河川の維持管理では一級河川13水系の大臣区間における、ダム・排水ポンプ・樋門等の操作、河川管理施設の機能の維持や損傷した施設の機能回復のため、巡視、点検、補修等を推進します。効率的な維持管理として、ダムに支障となる流木処理、堤防点検のための堤防除草、ボランティアによる河川清掃等についてコスト縮減も含めた地域還元や地域連携を積極的に推進します。

また、既存施設が機能発揮するよう、コスト縮減に努め適切な維持管理を行うとともに、更新が必要な施設の増大が見込まれることから既存施設の長寿命化対策を推進します。



施設の点検（樋門）



施設の点検（ダムゲート）



ボランティア河川清掃

(2) ハード・ソフト一体となった総合的な防災・減災対策の推進

地域との協働、防災関係機関の連携強化の推進

頻発する災害に備え、減災に不可欠な防災力の向上（自助・共助・公助）を目指し、各自治体に対して災害対策に関する各種支援を行うことを目的として設置された「河川災害情報普及支援室」を窓口として、市町村が行うハザードマップ作成への支援、住民参加型の防災訓練等を行います。

また、防災関係機関が防災情報をリアルタイムで共有し、迅速かつ円滑な災害対策を実施するため、防災情報共有システムへの未参加市町村等に対して参加を促進すると共に、防災情報収集のための機器整備を行います。



水防演習の実施（釜段工法）

2 地球環境時代を先導し自然と共生する持続可能な地域社会の形成

(1) 自然共生社会の形成

① ラムサール条約湿地や河川を軸とした生態系ネットワーク形成等における自然再生の推進

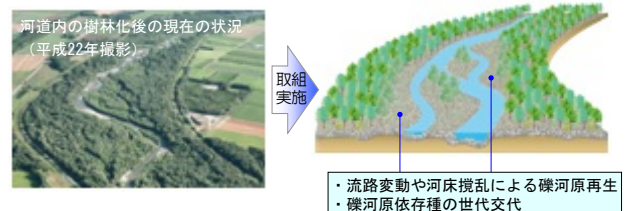
北海道の恵まれた自然環境の保全・再生を図るため、地域住民、NPO、学識経験者、関係機関等が連携・協働し、各種施策を推進します。

近年、流域の経済活動の拡大等に伴い湿原面積が著しく減少している釧路湿原において、久著呂川における湿原中心部への土砂流入の抑制及び幌呂地区の湿原再生等を引き続き推進します。

このほか、石狩川下流当別地区において湿原等の回復、天塩川下流地区において汽水環境の再生、十勝川の札内川地区では、氷河期の遺存種であるケショウヤナギの更新地や渡り鳥の繁殖地、河川性鳥類の生息地として重要となる礫河原再生を引き続き推進します。



釧路湿原自然再生（久著呂川土砂調整地）



札内川自然再生イメージ図

② 連携・協働による水環境の保全

網走湖は、流域からの生活排水、農業・工場排水の流入やオホーツク海から逆流した塩水層からの拡散などによる汚濁負荷の蓄積による富栄養化の進行に伴い、昭和50年代後半からアオコが頻発し、過去には皆無であった青潮も昭和62年から発生するようになり、近年ではアオコと同様に頻発しています。

これらの水質障害は、網走湖の自然環境だけでなく水産資源の生息をも脅かし始め、地域にとってこのまま放置できない状況となりました。

平成16年6月、関係機関等との連携・協働により「網走川水系網走川水環境改善緊急行動計画（清流ルネッサンスⅡ）」を策定しました。引き続き、水環境改善を目指し、湖内負荷削減対策及び流域汚濁負荷削減対策を推進します。

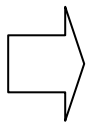


底泥浚渫状況

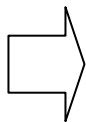
(2) 循環型社会の形成

堤防除草により毎年発生する刈草を堆肥化するなどリサイクルを進め、処理コストの縮減を図ります。

ダム貯水池で集積した流木については、一般の方への無料配布や、チップ化による園路整備等、資源の有効利用に取り組みます。



堤防の刈草を家畜の敷藁や堆肥材料等として利用



ダム貯水池で集積した流木をチップ化し園路整備として利用

(3) 低炭素社会の形成

地域住民、NPO等との協働により、河川やダム空間等において植樹の取組を行います。

3 グローバルな競争力ある自立的安定経済の実現

国際競争力の高い魅力ある観光地づくり

北海道らしい豊かな自然環境の保全や適正な利用を図るための取組として、釧路湿原の保全・再生や網走湖等における水環境改善を推進します。



植樹の取組

平成26年度（継続）

ちとせ 千歳川遊水地群整備事業

（直轄）

1. 概 要

千歳川の中下流部には広大な低平地が広がっているため、洪水時に石狩川本川の高い水位の影響を長い区間にわたり長時間受けるなど水害が起きやすい特性を有しており、ほぼ2年に1回という頻度で水害に見舞われています。

特に、昭和56年8月上旬洪水は未曾有の大洪水となり、被害家屋2,683戸、浸水面積192km²、総被害額267億円の被害をもたらしました。

本事業は、「堤防強化（遊水地併用）案」を盛り込んだ千歳川河川整備計画が、平成17年4月に策定されたのを受けて、度重なる水害の解消を図るため、遊水地群を千歳川本支川に分散して整備し、災害の防止を図るものです。

2. 計画内容

箇所名：江別市（江別太^{えべつと}）、南幌町（晩翠^{ばんすい}）、北広島市（東の里）、恵庭市（北島）、
長沼町（嶮淵右岸^{けぬち}）、千歳市（根志越^{ねしこし}）

面積：A=1,150ha

全体事業費：C=1,150億円

事業予定期間：平成20年度～平成31年度

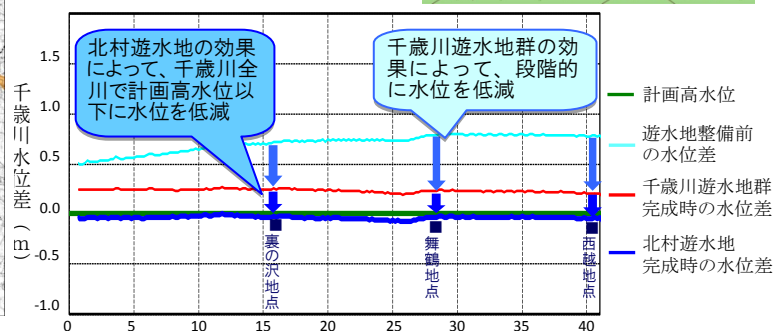
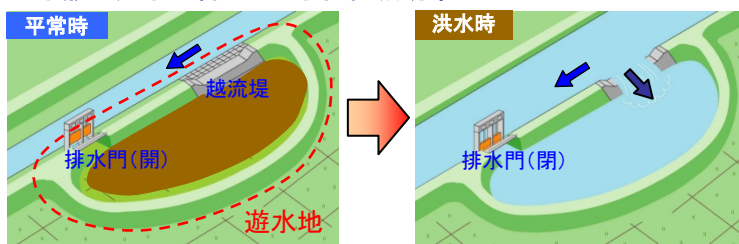
H26実施内容：掘削、築堤、用地及び補償費等



■S56.8月上旬降雨による浸水区域



■千歳川遊水地群による水位低減効果



※事業完了後の遊水地の恒久的な名称として、各自治体からの意見を踏まえ、嶮淵右岸地区は舞鶴遊水地と呼びます。

1. 概 要

石狩川下流域には道都札幌市等が位置し、北海道の社会、経済の中核となっているほか、流域内の広大な農地は我が国数々の食料供給地となっています。特に昭和56年8月上旬洪水時には、11箇所の堤防が破堤するなど、氾濫面積614km²、被害家屋約22,500戸におよぶ甚大な浸水被害が発生しました。この戦後最大規模の洪水から石狩川下流域を防御するため、北村遊水地の整備を実施します。

2. 計画内容

箇 所 名：岩見沢市、月形町、新篠津村

面 積：A=950ha

全 体 事 業 費：C=700億円

事業予定期間：平成24年度～平成38年度

H26実施内容：築堤、用地及び補償費等



■S56.8上旬降雨による浸水区域

<S56.8上旬洪水被害概要>

- ・氾濫面積約614km²、
- ・被害家屋約22,500戸、死者2名

凡 例

- 氾濫区域
- ⊗ 破堤箇所

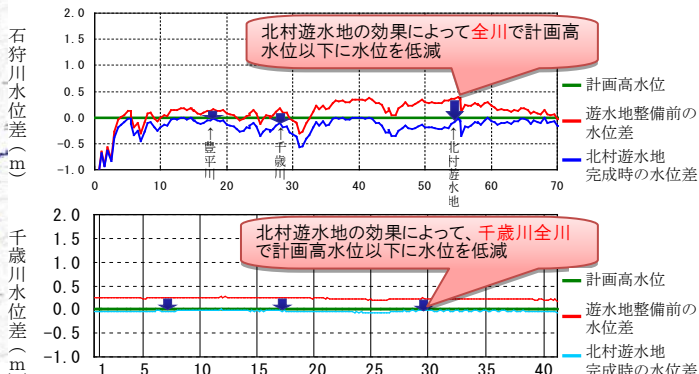


創成川 市街地の浸水状況
（札幌市）



石狩川右岸 下新篠津付近の氾濫状況
（江別市）

■北村遊水地による水位低減効果



平成26年度（完成予定）

ゆうばり 夕張スーパーパロダム建設事業

（直轄）

1. 概要

近年頻発する洪水災害から地域社会を守るため、夕張スーパーパロダムの建設を推進します。

平成7年度建設事業に着手した夕張スーパーパロダムは、平成26年度の完成に向けて、試験湛水を継続します。

○平成26年度実施内容 本体関連工事、管理設備工事、水理水文調査、試験湛水等

2. 計画内容

○目的

- ・洪水調節（夕張川、石狩川の洪水防御）
- ・流水の正常な機能の維持
- ・かんがい用水の補給（国営かんがい排水事業：最大 $50.129 \text{ m}^3/\text{s}$ ）
- ・水道用水の供給（石狩東部広域水道企業団： $0.343 \text{ m}^3/\text{s}$ ）
- ・発電（北海道企業局：最大 26,600kw）

○ダム諸元

- ・型式 重力式コンクリートダム
- ・堤高：110.6m
- ・堤頂長：390.0m
- ・堤体積： $940,000 \text{ m}^3$
- ・総貯水容量： $427,000,000 \text{ m}^3$



完成予想図



本体工事状況（平成25年11月撮影）

平成26年度（継続）

たるまえさん
樽前山火山砂防事業

(直轄)

1. 概 要

樽前山は、1667 年から 1987 年までに大規模～中規模の噴火を繰り返し、1739 年の大噴火では火砕流が山麓まで流下しました。昭和 53 年(1978)のごく小規模の噴火後も火口の高温状態が続いており、平成 8 年(1996)以降地震活動が増加、平成 22 年(2010)にも火山性地震が 2 回発生し火山性微動が起きるなど、いつ噴火してもおかしくないと言われ、気象庁の常時観測火山となっています。

樽前山麓には苫小牧市・白老町の市街地が位置し、道央自動車道・国道 36 号・JR 室蘭本線などの重要交通網や新千歳空港・苫小牧港・苫小牧臨海工業地帯などの物流拠点が集中しており、噴火した場合、甚大な被害の発生が危惧されます。このため、火山泥流災害の被害軽減を目的として平成 6 年から直轄火山砂防事業により砂防設備の整備を進めています。

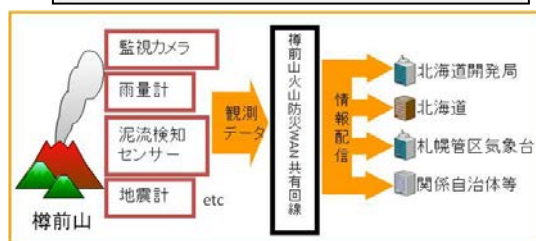
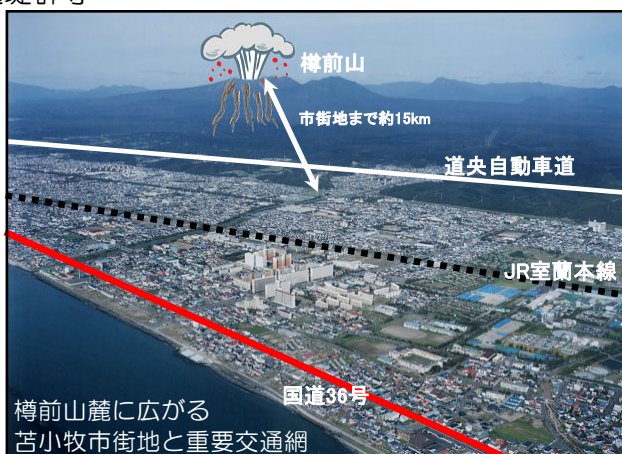
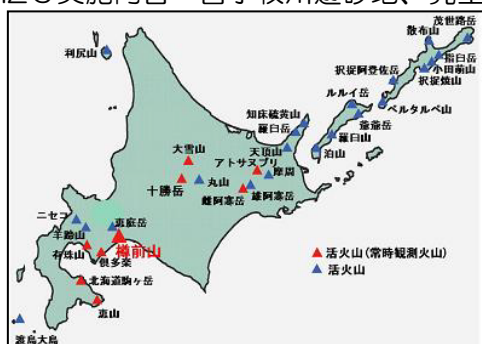
2. 計画内容

簡 所 名：苫小牧市、白老町

實施內容：遊砂地工、砂防堰堤工、火山觀測機器等

事業予定期間：平成6年度～

H26実施内容：苫小牧川遊砂地、^{おぼっふ}覚生川砂防堰堤群等



樽前山火山情報共有イメージ



覺生川砂防堰堤群(建設中)



平成26年度（継続）

あばしり 網走川総合水系環境整備事業

（直轄）

1. 概 要

網走湖は、網走川下流に位置する汽水湖であり、網走国定公園に指定されています。また、豊かな自然に恵まれた観光地として、湖畔には地域住民の憩いの場や観光ホテルが立地するほか、道内の約8割の漁獲量を占めるヤマトシジミやワカサギ等の内水面漁業の場として、地域にとってかけがえのない湖です。

しかし、生活排水、農業・工場排水の流入負荷の急激な増加やオホーツク海から逆流した塩水層からの富栄養化の進行に伴い、昭和50年代後半からアオコが頻発し、昭和62年に初めて発生した青潮も、近年ではアオコと同様に頻発するようになりました。アオコ・青潮の発生は、自然環境だけでなく水産資源となっている生物の生息をも脅かし始め、地域にとってこのまま放置できない状況となりました。

このため、網走湖の水環境改善を目指し、河川管理者、関係機関等が連携・協働し、平成16年に「網走川水系網走川水環境改善緊急行動計画（清流ルネッサンスⅡ）」を策定し、塩淡水境界層制御や底泥対策、下水道整備及び排水対策等について、流域一体となって実施することにより、水質及び水環境の改善を図ります。

2. 計画内容

箇所名：網走湖

実施内容：浚渫、水草刈取、植生利用浄化、河道内直接処理、塩淡水境界層制御施設

事業予定期間：平成5年度～平成29年度

H26実施内容：浚渫、排泥地撤去、塩淡監視装置設置



2. 海岸事業

1 安全・安心な国土づくり

国土保全事業の総合的・計画的な推進

北海道の物流の要である苫小牧港の西側に位置し、背後に重要交通網の国道36号やJR室蘭本線が隣接するとともに、住宅が密集している胆振海岸において、海岸侵食対策として人工リーフ整備を推進します。

2 地球環境時代を先導し自然と共生する 持続的な地域社会の形成

豊かな自然環境と共存する地域の形成

海岸の多様な生態系を保全するため、砂浜の保全を推進します。



胆振海岸(白老工区)人工リーフ

平成26年度（継続）

いぶり 胆振海岸 海岸保全施設整備事業

（直轄）

1. 概 要

胆振海岸は北海道の物流の要である苫小牧港の西側に位置する海岸であり、背後には重要交通網の国道36号、JR室蘭本線が隣接するとともに、それらに面して住宅が密集しています。当海岸では、海岸侵食の進行に伴い、夏期から秋期にかけての台風や季節風による波浪災害が頻発しており、住民生活、経済活動に重大な影響を及ぼしていることから、海岸侵食対策として人工リーフ整備を推進します。

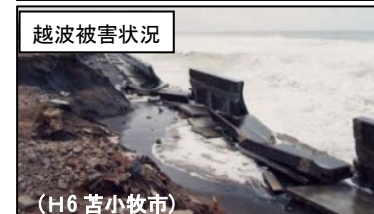
2. 計画内容

箇 所 名：苫小牧市、白老町

直轄区間延長：L=24.595km

事業開始時期：昭和63年度

H26実施内容：白老工区 人工リーフ



3. 道路事業

<基本方針>

平成26年度予算については、「食料供給力の強化」、「安全・安心な国土の形成」及び「地域の活性化」を重点事項として、第7期北海道総合開発計画及びその中間点検に基づき、また、「日本再興戦略」等を踏まえ、活力と競争力ある北海道経済の確立を図るための基盤整備を推進します。

また、北海道の豊かな資源・特性を活かして、我が国が直面する課題の解決に貢献すべく、経済成長や生活向上の大前提となる安全・安心の確保を図るため、防災・減災や老朽化対策等による国土強靱化を推進します。

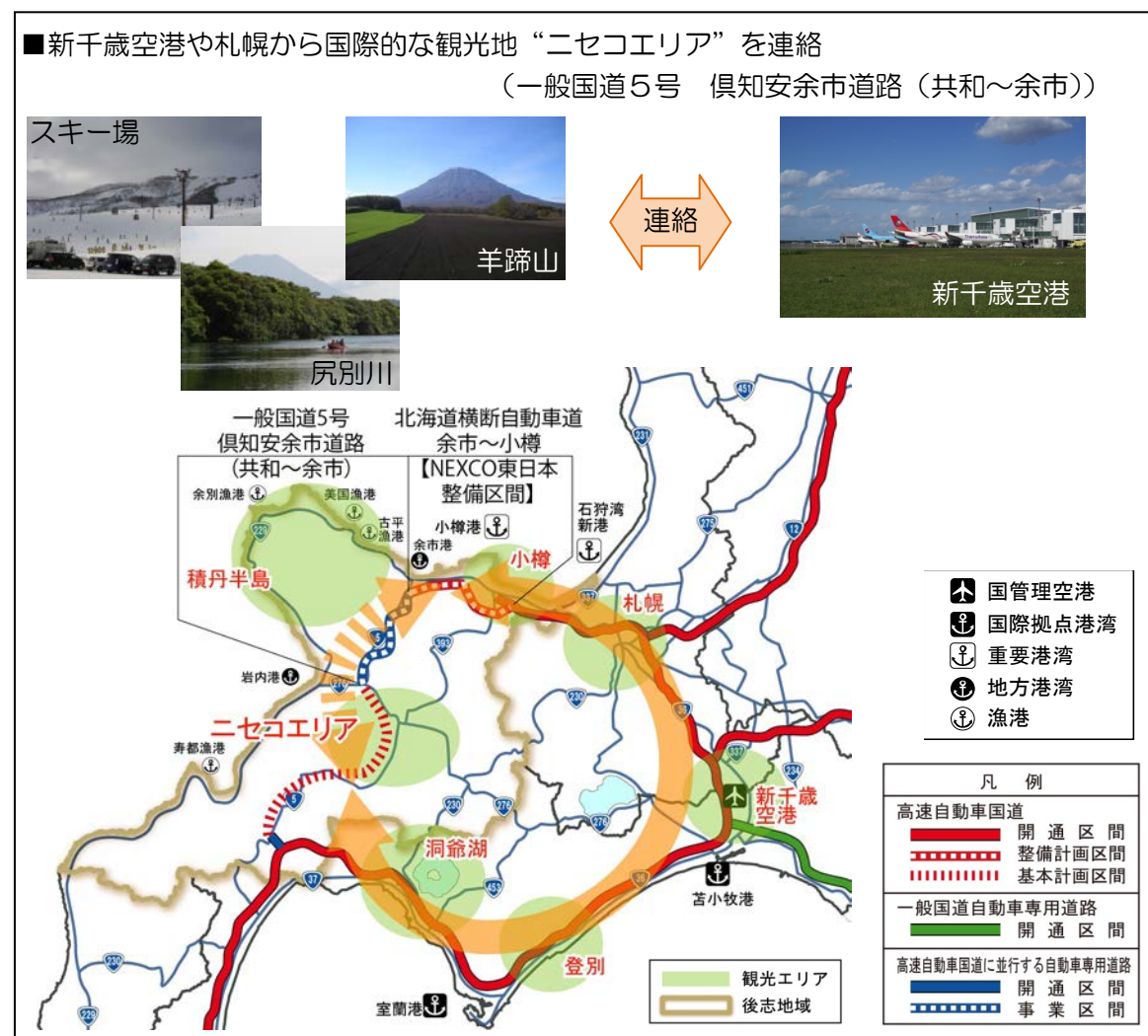
<主要施策>

1 内外の交流を支えるネットワークとモビリティの向上

(1) 国内外に開かれた広域交通ネットワークの構築

広域的な交流の強化

拠点的な空港・港湾等の交通拠点から道内・国内外から訪れる観光客に人気の高い主要な観光地への速達性向上を図ります。



(2) 地域交通の形成

円滑な都市・地域活動のための渋滞対策

北海道渋滞対策協議会において特定された主要渋滞箇所の解消に向けた検討・対策を実施します。



(3) 冬期交通の信頼性向上

道路の雪寒対策の推進

安全で円滑な冬期道路交通の確保を図るため、気象状況や交通状況等を踏まえて、適切なタイミングで除排雪作業を実施します。また、大規模な暴風雪災害を想定した救助訓練を実施するなど関係機関相互の連携をより一層強化するとともに、雪害時に自治体の要請に基づいて除雪車両を貸与できる支援体制を構築しています。

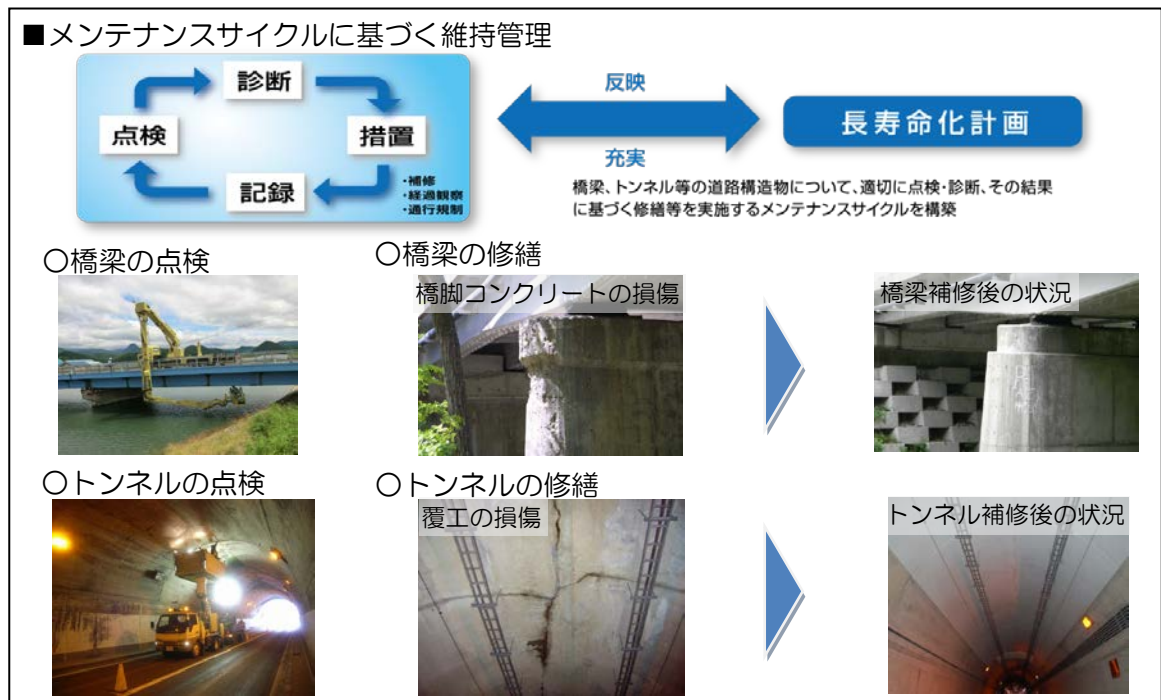


2 安全・安心な国土づくり

(1) 頻発する自然災害に備える防災対策の推進

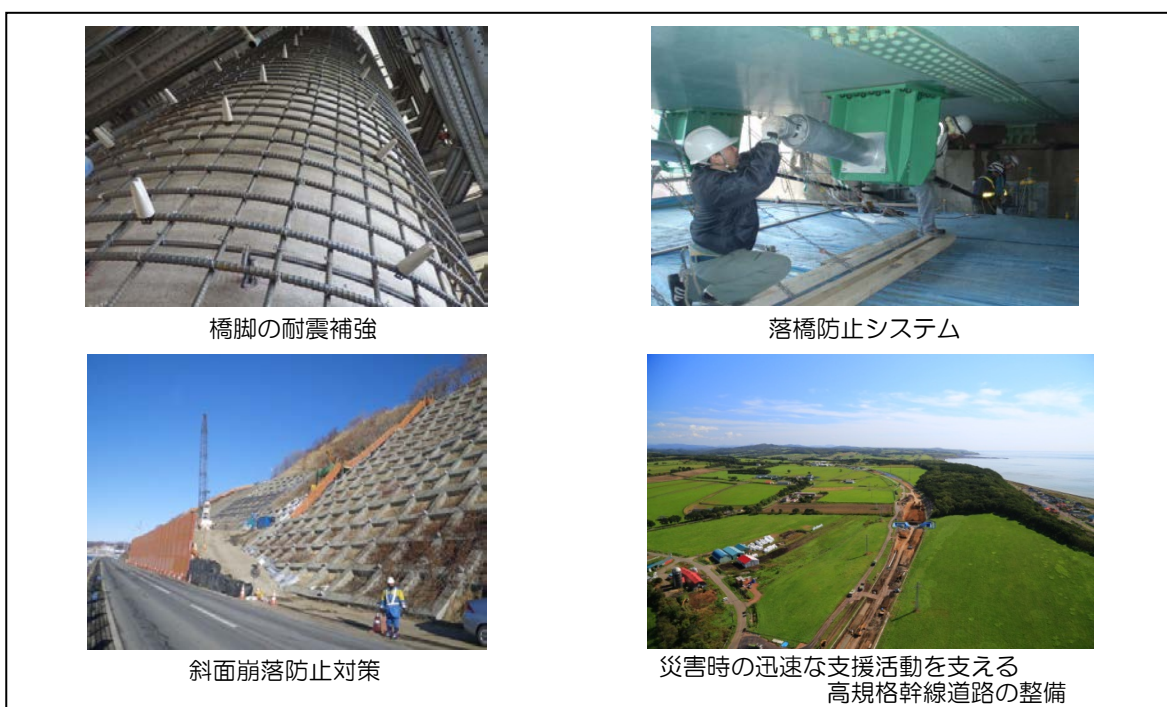
①道路の老朽化対策

橋梁・トンネル等の道路構造物について、適切に点検・診断、その結果に基づく修繕等を実施するメンテナンスサイクルを構築し、インフラの長寿命化を引き続き推進します。



②道路の防災・震災対策

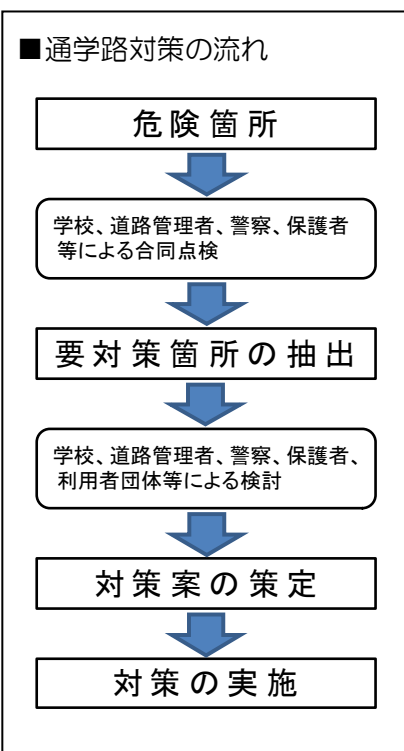
災害発生時における被害を軽減し、円滑かつ迅速な復旧支援活動を支えるため、斜面や盛土等の防災対策や耐震対策を進めるとともに、主要都市間等を連絡する高規格幹線道路の整備を推進します。



(2) 道路交通事故等のない社会を目指した交通安全対策の推進

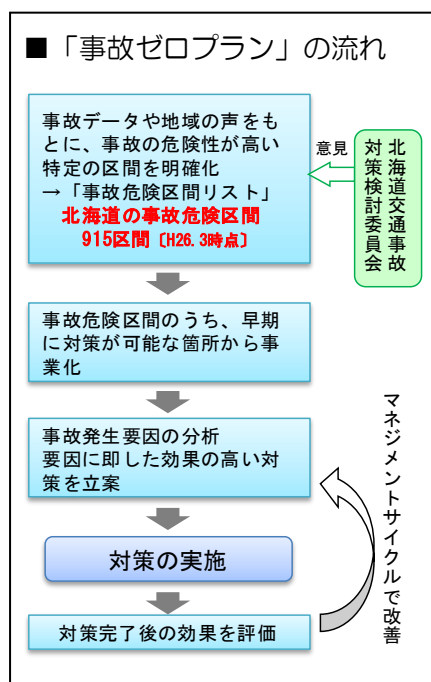
① 通学路をはじめとする歩行空間の安全・安心の確保

通学路緊急合同点検に基づく歩道整備や防護柵の設置等を引き続き実施するとともに、継続的な合同点検や効果把握等の計画的な取組を推進します。



② 効果的・効率的な事故対策の推進

事故データや地域の声に基づく事故の危険性が高い区間等における重点的な対策を実施する事故ゼロプラン（事故危険区間重点解消作戦）に基づき、幹線道路のみならず身近な道路においても交通安全対策を推進します。



3 魅力と活力ある北国の地域づくり・まちづくり

都市における機能の強化と魅力の向上

無電柱化の推進

道路の防災性の向上、安全で快適な通行空間の確保、良好な景観の形成や観光振興の観点から、地域住民や電線管理者等と連携し、無電柱化を推進します。

■現状の課題

歩行等の支障となる電柱※

景観の阻害

電柱の倒壊による道路閉塞※

※国土交通省 道路局HPより

■整備イメージ

整備前

整備後

■整備済み区間の例

整備前

整備後

写真：国道36号 札幌市

4 グローバルな競争力ある自立的安定経済の実現

国際競争力の高い魅力ある観光地づくり

道路案内標識の英語表記

北海道を訪れる外国人観光客のレンタカー等による周遊観光を支援するため、目的地までの分かりやすい道路案内に努め、より安全で快適なドライブ環境を創出します。

■函館地区における改善例

- ・海峡通 Kaikyo dori → Kaikyo St. 改善部分
- ・立待岬 Tachimachimisaki → Cape Tachimachi 改善部分

(従来)

➡

(今後)

改善部分

【 参考 】

道路ネットワーク図

平成25年度末

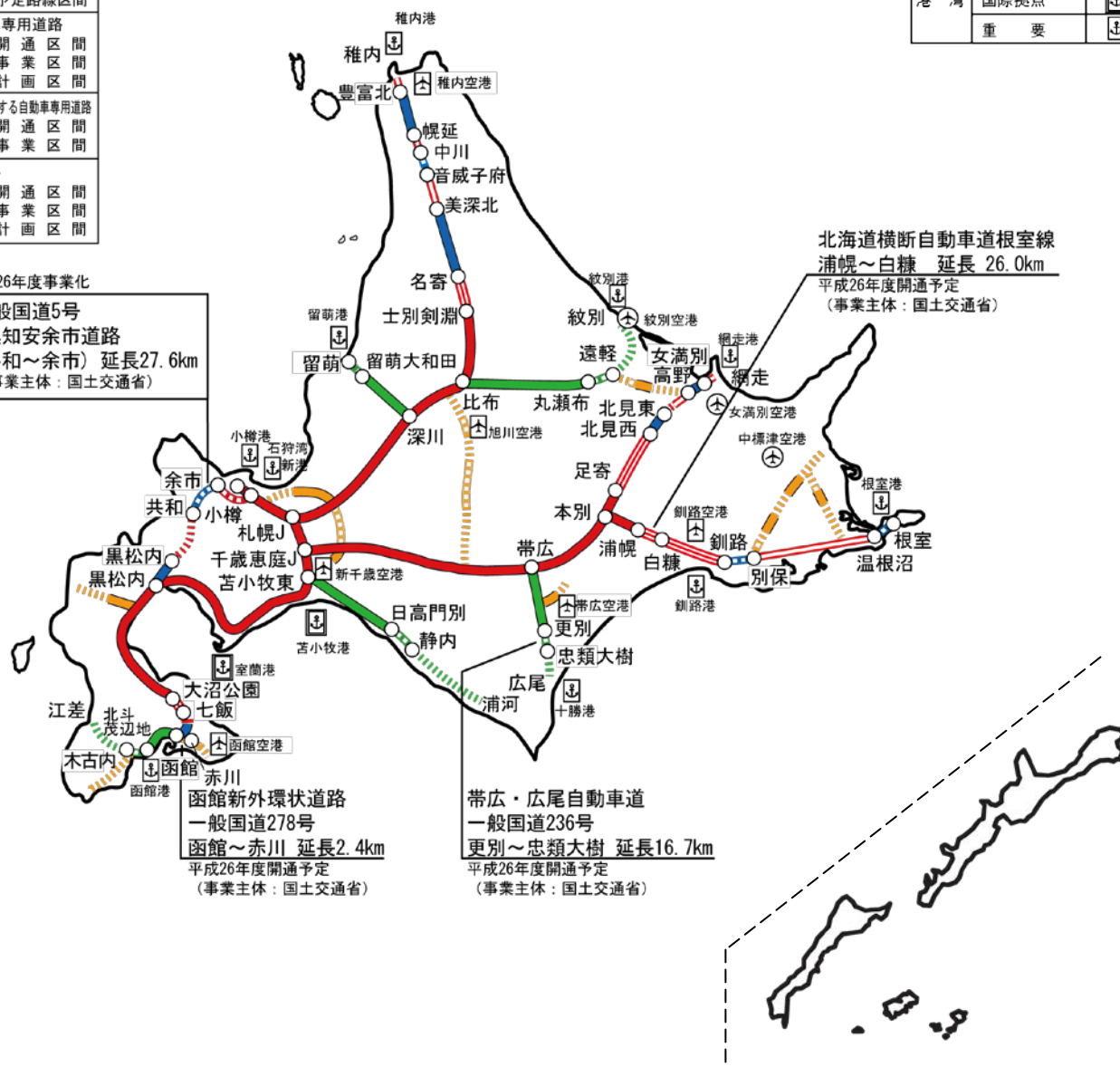
凡 例	
高速自動車国道	
開 通 区 間	——
整備計画区間	----
うち直轄整備区間	----
基本計画区間	----
予定路線区間	----
一般国道自動車専用道路	
開 通 区 間	——
事業区間	----
計 画 区 間	----
高速自動車国道に並行する自動車専用道路	
開 通 区 間	——
事業区間	----
地域高規格道路	
開 通 区 間	——
事業区間	----
計 画 区 間	----

凡 例		
空 港	国 管 理	↑
	特定地方管理	↑
港 湾	地方管理	↑
	国際拠点	↑
	重 要	↑

平成26年度事業化

一般国道5号
倶知安余市道路
(共和～余市) 延長27.6km
(事業主体：国土交通省)

北海道横断自動車道根室線
浦幌～白糠 延長 26.0km
平成26年度開通予定
(事業主体：国土交通省)



○高規格幹線道路の整備状況

	総延長	平成25年度末	
		開通延長	進捗率
北海道	1,825km	1,015km	(56%)
全国(北海道除く)	約12,175km	9,681km	(80%)
全国(北海道含む)	約14,000km	10,696km	(76%)

平成26年度（部分供用予定）

北海道横断自動車道 本別～釧路

（直轄）

1. 概要

北海道横断自動車道は、黒松内町を起点とし、小樽市、札幌市、千歳市、夕張市、帯広市、本別町等を経由し、根室市・網走市へ至る延長約694kmの高速自動車国道です。

このうち本別～釧路は、本別ICから釧路IC（仮称）に至る延長65kmの事業であり、高速ネットワークの拡充による釧路圏と道央・十勝、オホーツク圏の連絡機能の強化を図り、地域間交流の活性化及び、国際拠点港湾苫小牧港、新千歳空港等への物流の効率化等の支援を目的とした道路です。

平成26年度は、浦幌ICから阿寒IC（仮称）間では開通に向けた工事を重点的に進め、阿寒IC（仮称）から釧路IC（仮称）間では、工事着手に向け用地取得を進めます。

2. 計画内容

箇所名：北海道中川郡本別町 共栄～北海道釧路市鶴野

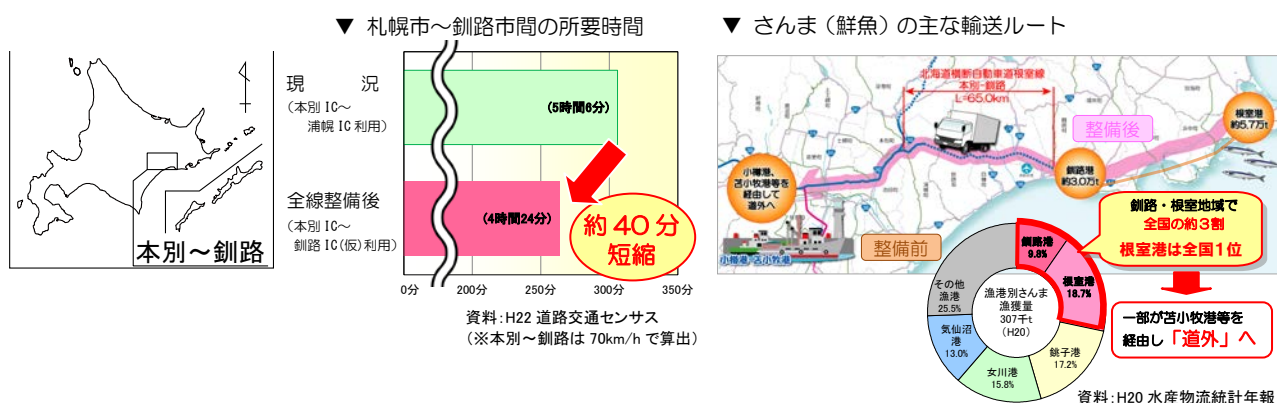
延長：L=65.0km（うち開通済 L=8.0km）

開通予定：平成26年度 L=26.0km（浦幌IC～白糠IC）

平成27年度 L=14.0km（白糠IC～阿寒IC（仮称））

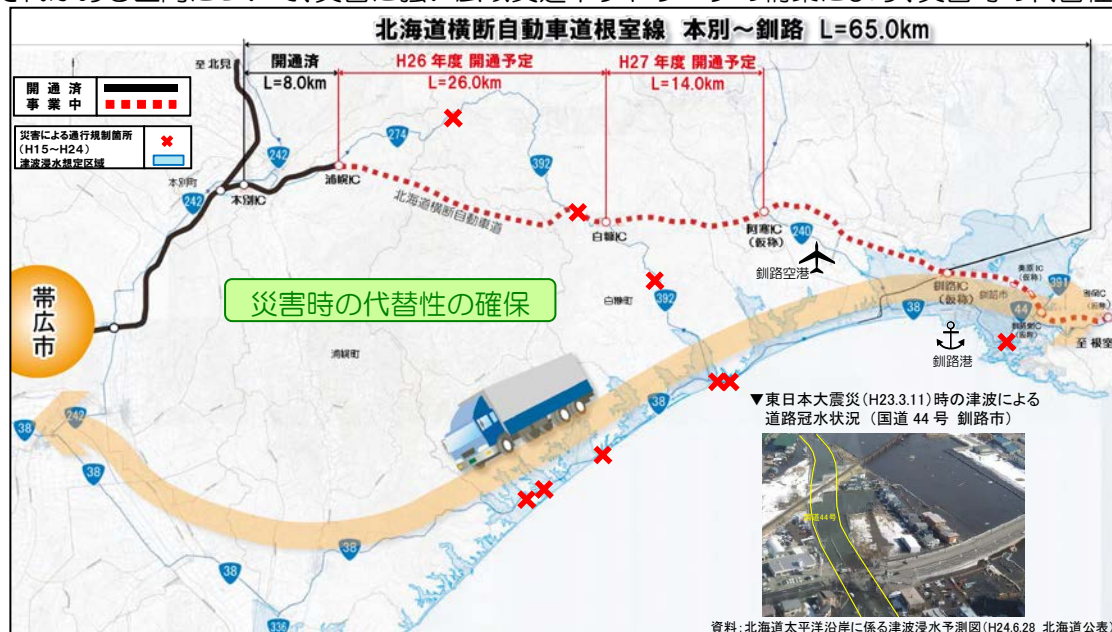
■高速ネットワークの形成

拠点都市である釧路市と道央・十勝圏とのネットワークが強化。



■災害・緊急時における代替機能の向上

今後想定される地震津波発生時や豪雨・豪雪時に現道が寸断することにより広域交通に影響を及ぼすおそれがある区間について、災害に強い広域交通ネットワークの構築により、災害時の代替性を確保。



平成26年度（完成予定）

帯広・広尾自動車道 中札内大樹道路

（直轄）

1. 概要

帯広・広尾自動車道は、帯広市を起点とし、中札内村、更別村、大樹町を経由して広尾町に至る延長約80kmの自動車専用道路です。

このうち中札内大樹道路は、高速ネットワークの拡充による近隣都市間の連絡機能の強化を図り、地域間交流の活性化及び、重要港湾十勝港、とかち帯広空港等への物流効率化等の支援を目的とした、中札内ICから忠類大樹IC（仮称）に至る延長23.2kmの事業です。

平成26年度は、更別ICから忠類大樹IC（仮称）間で開通に向けた工事を重点的に進めます。

2. 計画内容

箇所名：北海道河西郡中札内村字共和～北海道広尾郡大樹町北4線

延長：L=23.2km（うち開通済 L=6.5km）

開通予定：平成26年度 L=16.7km（更別IC～忠類大樹IC（仮称））

重要港湾十勝港の利便性向上

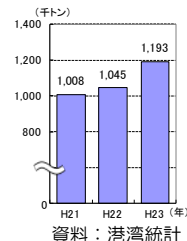
帯広・広尾自動車道の整備により、速達性・安定性の高い輸送ルートが確保され、帯広市と重要港湾十勝港間の所要時間の短縮、物流が効率化。



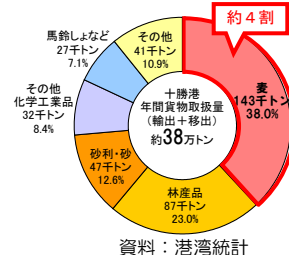
▼ 帯広市～広尾町間の所要時間

現在 〔中札内IC利用〕	夏期	92分
	冬期	119分
当該路線整備 〔忠類大樹IC利用〕	夏期	84分 8分短縮
	冬期	100分 19分短縮

▼ 十勝港の総取扱貨物量の推移



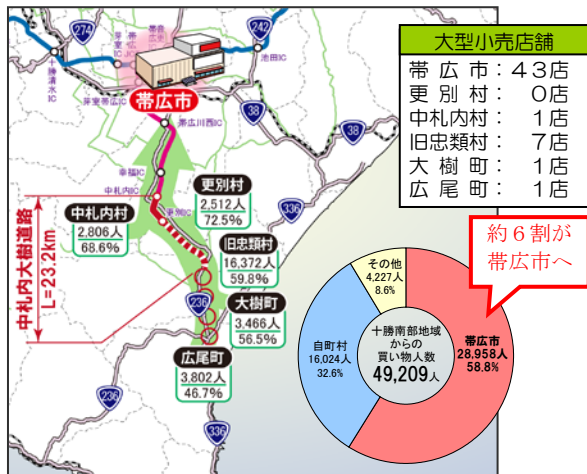
▼ 十勝港の輸出・移出取扱量



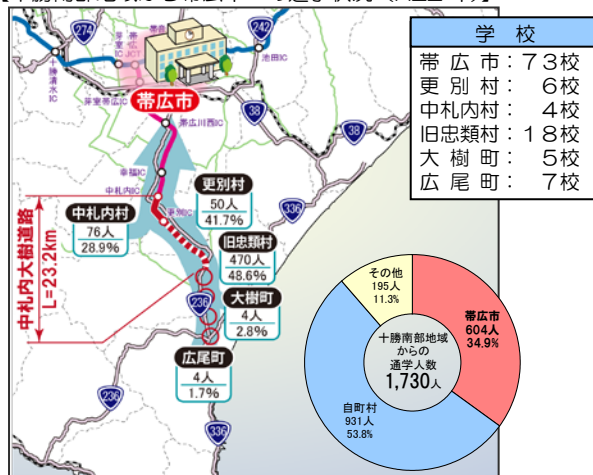
日常活動圏中心都市への利便性向上

帯広・広尾自動車道の整備により、広尾町から帯広市への所要時間が短縮し、日常活動圏中心都市への利便性が向上。

【十勝南部地域から帯広市への買い物状況（H22年）】



【十勝南部地域から帯広市への通学状況（H22年）】



平成26年度（部分供用予定）

一般国道231号 暑寒防災

（直轄）

1. 概要

国道231号暑寒防災は、札幌市と留萌市を結ぶ路線の落石崩落等による危険箇所の解消を図り、道路の安全な通行の確保を目的とした延長4.0kmの防災対策事業です。

平成26年度は、増毛町岩老地区の開通にむけた工事を重点的に進めます。

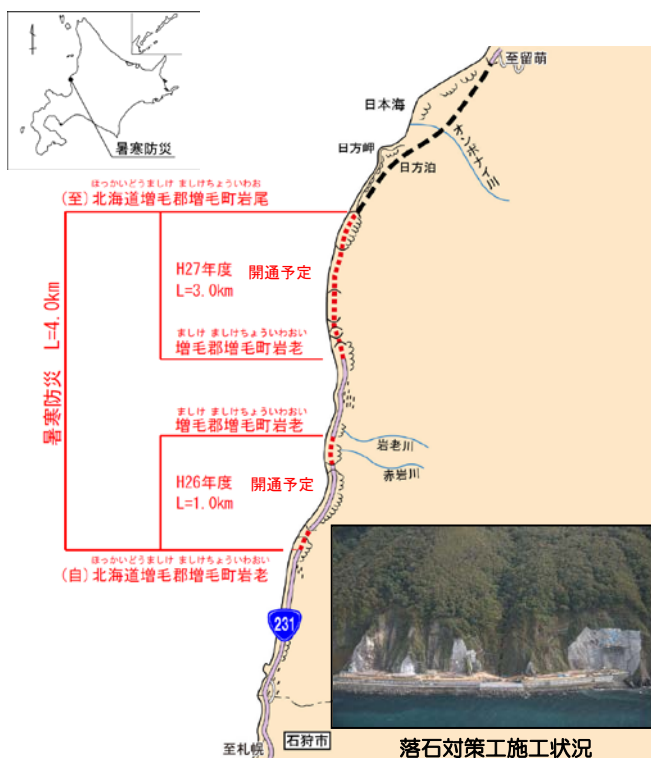
2. 計画内容

箇所名：北海道増毛郡増毛町岩老～北海道増毛郡増毛町岩尾

延長：L=4.0km

開通予定：平成26年度 L=1.0km（増毛町岩老～増毛町岩老間）

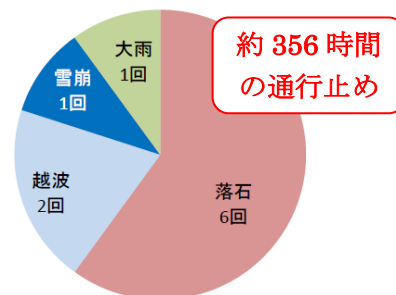
平成27年度 L=3.0km（増毛町岩老～増毛町岩尾間）



■落石の発生状況（平成20年5月）



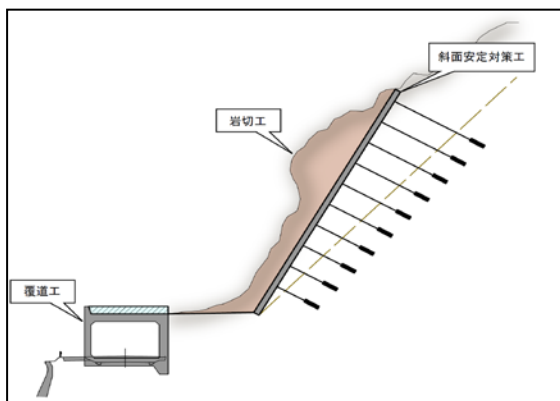
■通行止め回数



資料：留萌開発建設部（H13～H24）

■道路交通の安全性向上

落石要因となる岩盤法面の対策を行うことにより、通勤・通学・医療の拠点である増毛町や留萌市への道路交通の安全性が向上。



落石対策工概要図



迂回路状況図

平成26年度（完成予定）

一般国道276号 いわないきょうわ 岩内共和道路

（直轄）

1. 概要

国道276号は、江差町を起点とし、苫小牧市に至る延長約110kmの幹線道路です。

このうち、岩内共和道路は、冬期視程障害の緩和や交通事故・交通混雑の低減を図り、岩内港等への物流効率化等の支援を目的とした岩内郡共和町梨野舞納から同町国富に至る延長7.6kmの事業です。

平成26年度は、共和町幌似から同町国富間の開通に向けた工事を進めます。

2. 計画内容

箇所名：北海道岩内郡共和町梨野舞納～北海道岩内郡共和町国富

延長：L=7.6km

開通予定：平成26年度 L=1.1km（共和町幌似～同町国富）

平成25年度 L=6.5km（共和町梨野舞納～同町幌似 H26.3.23開通）

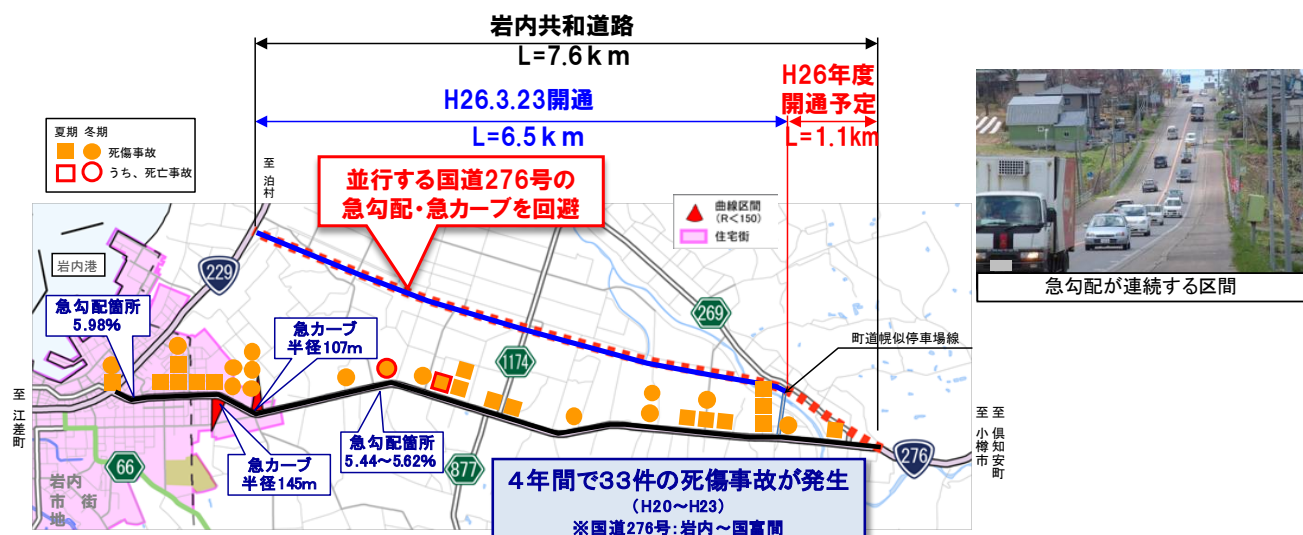
■冬期走行環境の向上

激しい風雪や地吹雪時の視程障害が緩和されることにより、冬期走行環境が向上。



■道路交通の安全性向上

急勾配・急カーブの区間を回避する平坦な道路の通行が可能となり、道路交通の安全性が向上。



平成26年度（新規）

一般国道5号 倶知安余市道路（共和～余市）

（直轄）

1. 概要

国道5号は、函館市を起点として、長万部町、倶知安町、余市町、小樽市等を経由し、札幌市に至る延長約283 kmの幹線道路です。

このうち倶知安余市道路（共和～余市）は、余市市街地等における交通混雑の緩和及び交通事故低減による安全性の向上、拠点空港新千歳空港から国際観光地ニセコへの速達性の向上により、観光振興による地域の活性化支援及び有珠山噴火等の災害時の代替路として寄与することを目的とした延長27.6 kmの一般国道のバイパス事業です。

2. 計画内容

箇所名：北海道岩内郡共和町字国富～北海道余市郡余市町登町
延長：L=27.6 km

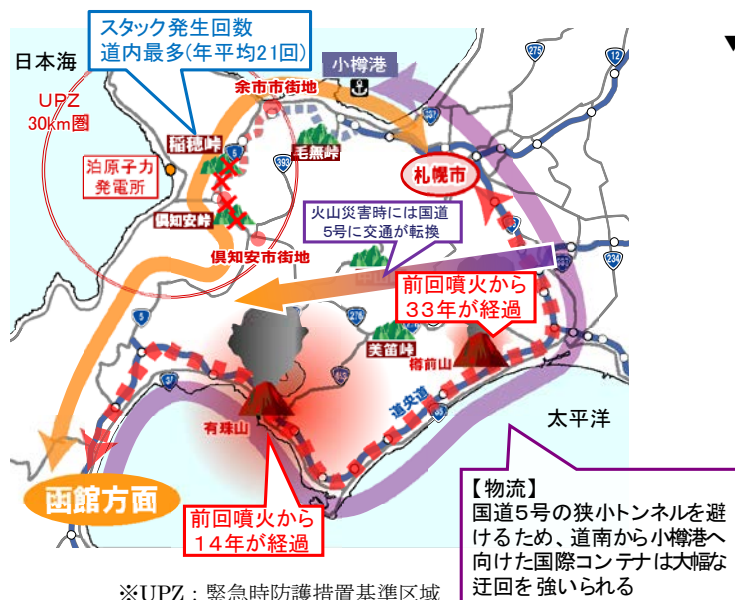
■個性ある地域の形成

新千歳空港や札幌からニセコエリアへの速達性が向上し、観光立国の推進に貢献。

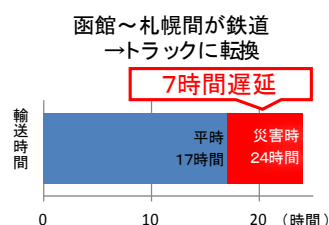


■災害・緊急時における代替機能の向上

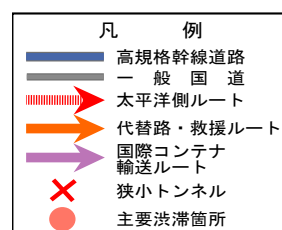
高速ネットワークを構築することで災害・緊急時の迅速な救援・避難に貢献。また、通行支障箇所の解消により、物流の効率化及び代替機能の向上が図られ、函館方面と小樽港など道央圏との交流を支援。



▼ H12噴火時の本州～札幌間宅配貨物輸送状況



資料：北海道開発局調べ



平成26年度（新規）

北海道235号交差点改良等（^{はるたち}春立歩道整備）

（直轄）

1. 概要

当該箇所は、新ひだか町東静内小学校の通学路に指定されており、平成24年に実施した関係機関による通学路の緊急合同点検の結果、歩道が無く、道路幅員が狭隘であり、通過車両も多いため、通学児童の歩行に危険が生じている状況から、要対策箇所を選定されました。

歩道を設置することで通学児童等の歩行者が安全・安心に通行できる歩行空間の確保を図ります。

2. 計画内容

箇所名：北海道^{ひだか しん ひだか}日高郡新ひだか町^{ちようはるたち}春立
延長：L=1.1km



▼ 北海道新ひだか町 東静内小学校の通学路対策箇所図



▼ 整備前（現在の状況）



▼ 通学路の緊急合同点検実施状況



平成24年7月30日実施

平成26年度（新規）

一般国道273号 けいせつ 蛭雪橋架替

(直轄)

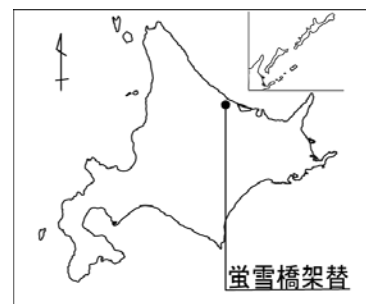
1. 概 要

国道273号は、帯広市を起点として、土幌町、上川町、滝上町等を経由し、紋別市に至る延長約168kmの幹線道路です。

このうち蛸雪橋架替は、橋梁の老朽化及び変状による重大な損傷を防止し、道路の安全な通行の確保を目的とした延長0.1 kmの事業です。

2. 計画内容

箇所名：北海道紋別市上渚滑町中渚滑
延長：L=0.1 km



■道路の老朽化対策

安定した輸送ルートが確保され、水産品の流通利便性が向上。また、救急搬送の速達性及び安定性が向上し、日常生活における安全・安心の確保に寄与。



【周辺地盤の変状に起因した損傷・異常】

▼支承の傾斜



▼地覆の変状



【老朽化による損傷】

▼床版のひび割れ



4. 港湾整備事業

北海道が持つ優れた資源・特性を活かし、地域の活力ある発展を実現するとともに、我が国が直面する課題の解決に貢献するためには、港湾の機能を適切に強化し、しっかりと活用していく必要があります。

平成26年度予算においては、新たな北海道総合開発計画において示された5つの計画の主要施策を推進するため、「競争力の強化」、「安全・安心の確保」に重点を置いた事業に取り組みます。

1 内外の交流を支えるネットワークとモビリティの向上

競争力の強化

国内外との多様な物流ネットワークの構築を図るため、国際物流ターミナル（バルク・コンテナ）など北海道の国際競争力の強化に向けた基盤整備を推進します。

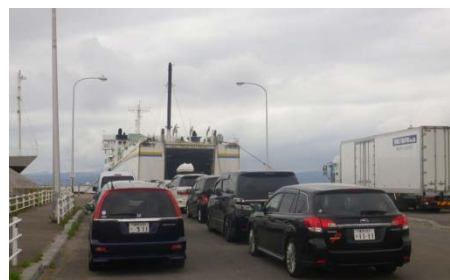
また、北海道・本州間の物流機能の強化と安定化を図るため、複合一貫輸送（フェリー・RORO船）ターミナルの整備、ならびに北海道の基幹産業である水産業の荷役環境の改善・高度化を図るための港湾施設の整備を推進します。



飼料穀物の荷役状況（釧路港）



国際物流ターミナル（外貿コンテナ）（苫小牧港）



フェリー乗船待ちの状況（函館港）

2 安全・安心な国土づくり

(1) 安全・安心の確保

地震等の災害が多い北海道において、大規模地震災害時の緊急物資等の輸送を確保するため、耐震強化岸壁の整備を推進します。

(2) 離島交通の安定化

離島における島民生活や本土・離島間の物流機能の安定化を図るため、離島及び本土側の港湾整備を推進します。

(3) 港湾施設の戦略的な維持管理

港湾施設の老朽化の進行や、老朽化による機能不全等に適切に対応するとともに、将来にわたる既存ストックの効率的、効果的な更新を計画的に進めるため、事後的な維持管理から予防保全的な維持管理への転換を推進します。

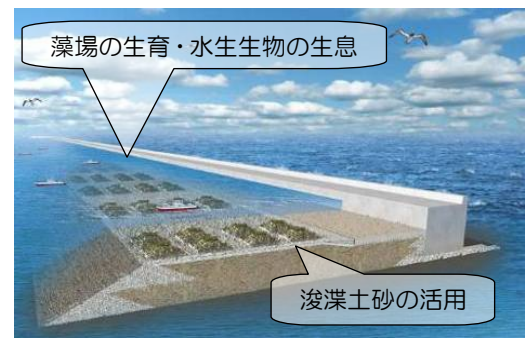


老朽化が著しい係留施設（稚内港）

3 地球環境時代を先導し自然と共生する持続可能な地域社会の形成

自然環境の保全・創造

浚渫土砂を活用した水生生物の生息環境の保全と創造を図るため、環境共生型防波堤の整備を推進します。



環境共生型防波堤 イメージ（釧路港）



平成26年度（新規）

釧路港国際物流ターミナル整備事業

（直轄）

1. 概 要

大型船舶による穀物の一括大量輸送を可能とし、北海道・東北地方を始めとする地域への穀物の安定的かつ安価な輸送を実現することを目的として、釧路港西港区第2ふ頭地区において、船舶の大型化への対応及び非効率な荷役形態の改善を図るため、水深14mの国際物流ターミナルの整備を行います。

2. 計画内容

平成26年度整備施設：岸壁(水深14m)、航路・泊地(水深14m)

全体事業費：142億円

事業予定期間：平成26年度 ～ 平成29年度



平成26年度（継続）

はこだて

函館港〔北ふ頭地区〕複合一貫輸送ターミナル整備事業

（直轄）

1. 概 要

函館港における内貿輸送需要の増大や船舶の大型化に対応した取扱能力の向上を図るため、函館港北ふ頭地区において、水深6.5mの複合一貫輸送ターミナルの整備を行います。

あわせて、大規模地震災害発生時の緊急輸送物輸送路を確保するため、耐震強化岸壁として整備を行います。

なお、平成25年度に岸壁を暫定供用しており、平成26年度においては、完成に向け整備を進めます。

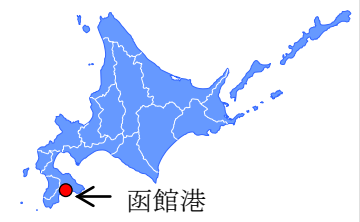
2. 計画内容

平成26年度整備施設：岸壁（水深6.5m）（耐震）

全体事業費：50億円

事業予定期間：平成23年度 ～ 平成27年度

【位置図】



5. 空港整備事業

1 内外の交流を支えるネットワークとモビリティの向上

冬期交通の信頼性向上

降雪等による視界不良、風向き等の気象条件によらない航空機運航の定時性、安定性を確保し、航空輸送の信頼性や利用者利便性の向上を図るため、B滑走路の北側進入用のILS（計器着陸装置）整備を進めます。

〔新千歳空港〕



新千歳空港のILS整備状況

2 安全・安心な国土づくり

（1）空港施設の老朽化対策

航空ネットワーク機能を保持するため、滑走路等の老朽化した施設の更新・改良を推進します。

〔新千歳空港、函館空港、釧路空港、稚内空港〕



既設誘導路舗装の劣化状況

（2）耐震対策事業

地震発生時の緊急物資等輸送拠点機能の確保、航空ネットワークの維持及び道内経済活動の継続性を確保する空港施設の耐震性の向上を図ります。

〔新千歳空港、函館空港〕



液状化対策施工状況

1. 概 要

新千歳空港にはA・B2本の滑走路があり、主にA滑走路を離陸用、B滑走路を着陸用とし、2本の滑走路を活用した運用を行っています。A滑走路の南北両方向からの進入、B滑走路の南側からの進入（北風卓越時）に対しては視界不良時に航空機を着陸誘導するI L S※が整備されています。しかし、B滑走路北側進入（南風卓越時）に対するI L Sが整備されていないことから、冬季のA滑走路除雪時にB滑走路北側進入となる場合、視界不良による欠航や遅延が発生しています。また、南風悪天候下でB滑走路北側進入ができない場合についてもA滑走路に離陸・着陸便が集中するため、遅延等が生じています。こうしたことから、B滑走路北側進入に対応するI L S整備を進め、今年度はI L Sを設置するための用地造成を行います。

2. 計画内容

箇 所 名：新千歳空港

整 備 内 容：用地造成

事業予定期間：平成20年度～平成27年度（想定）

●新千歳空港のI L S双方向化事業



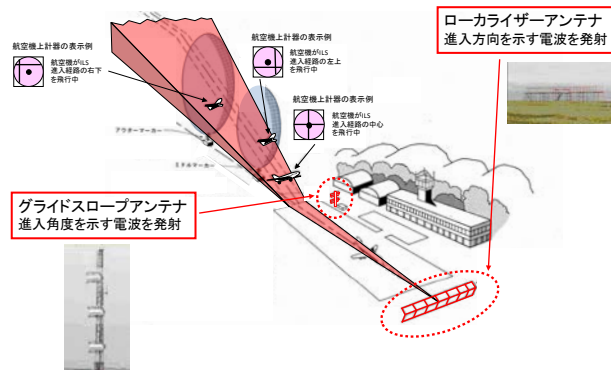
平成26年度整備箇所



※北海道開発局では用地造成を実施します

I L S双方向化事業イメージ

※ I L S (Instrument Landing System)：計器着陸装置



滑走路に進入中の航空機に対して、指向性のある電波を発射し、夜間、悪天候等の視界不良時でも航空機を安全に滑走路まで誘導する装置です。

平成26年度（継続）

しんちとせ

新千歳空港 耐震化事業（滑走路等液状化対策）

（直轄）

1. 概要

新千歳空港では、大規模地震災害時における緊急物資等輸送拠点としての機能確保、航空ネットワークの維持や背後圏経済活動の継続性確保を図るため、空港施設の耐震化を進めています。

今年度は、地盤の液状化により滑走路等に段差が生じ、航空機の離着陸等、災害時に必要な空港機能が確保できなくなる事態を防ぐため、滑走路及び誘導路の液状化対策を実施します。

2. 計画内容

箇所名：新千歳空港

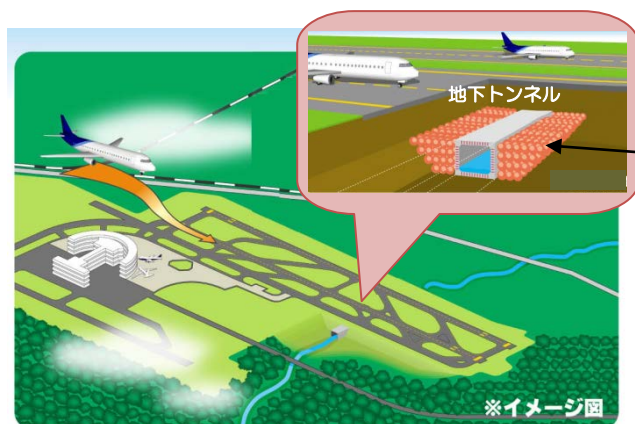
整備内容：滑走路等液状化対策

事業予定期間：平成19年度～

●新千歳空港の耐震化事業

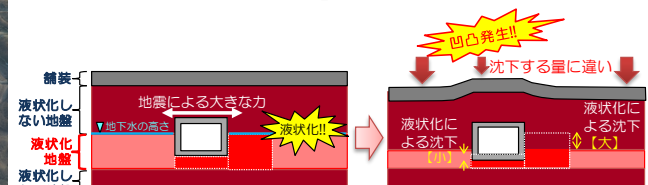


平成26年度整備箇所

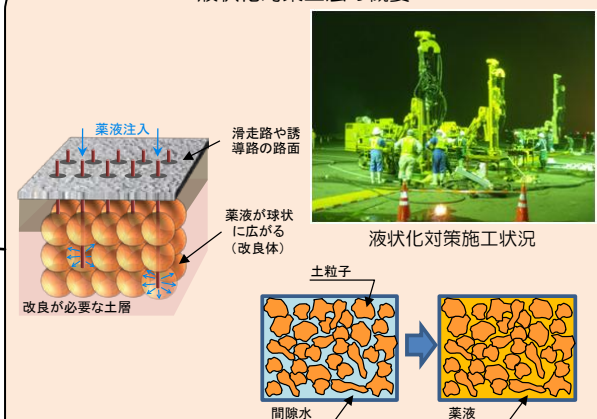


耐震化事業イメージ図

液状化による滑走路等の凹凸発生メカニズム



液状化対策工法の概要



地盤内に注入された薬液は、土粒子間の水（間隙水）を周囲に押し出しながら、球体に浸透していき固結します。液状化の原因となる間隙水を排除する事によって液状化現象を抑制します。

6. 農業農村整備事業

1 グローバルな競争力ある自立的安定経済の実現

食料供給力の強化と食にかかわる産業の

高付加価値化・競争力強化

① 農地の整備

地域の農業の振興を図るため、ほ場の大区画化、暗渠排水等の農地整備や担い手への農地集積により、生産コストの低減や農業の高付加価値化を図ります。

② 農業水利施設等の保全・更新

農業水利施設等の計画的な保全・更新により、地震・豪雨等の自然災害の激甚化や基幹的な農業水利施設の老朽化への対策を講じ、農業の生産力の確保を図ります。

③ 畑地かんがい等の整備

農産物の多様な用途・需要に対応して生産拡大を行い、営農を継続・発展させる取組等を支援するため、国営かんがい排水事業により、安定的な農業用水を確保する畑地かんがい施設等の整備を推進します。



担い手への農地集積の促進と地域農業の振興を図る国営農地再編整備事業の推進



農業水利施設等の計画的な保全・更新を行う国営かんがい排水事業の推進

2 地球環境時代を先導し自然と共生する

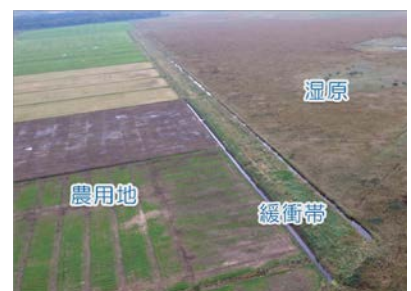
持続可能な地域社会の形成

(1) 自然共生社会の形成

自然と共生した持続的な農業生産の振興のため、関係者間の連携により、農地の排水整備と湿地の環境保全の両立を図る国営総合農地防災事業を推進します。

(2) 循環型社会の形成

農村における循環型社会の構築のため、国営環境保全型かんがい排水事業により、肥培かんがい施設や水質浄化機能を有した排水施設の整備を推進し、地域資源の活用・地域環境の負荷の軽減を図ります。



農地の排水整備と湿地の環境保全の両立を図る国営総合農地防災事業の推進

平成26年度（新規）

国営緊急農地再編整備事業 ニセコ地区

（直轄）

1. 概 要

- 区画整理を行い、耕作放棄地を含めた農地の土地利用を計画的に再編し、さらに、担い手への農地の利用集積を進めることにより、緊急的に生産性の向上と耕作放棄地の解消・発生防止による優良農地の確保を図り、農業の振興を基幹とした総合的な地域の活性化を図ります。

2. 計画内容

関係市町村：虻田郡ニセコ町

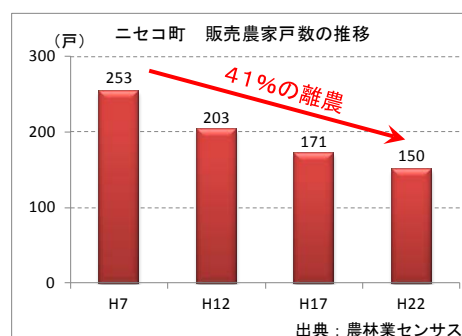
受益面積：1,490ha

主要工事：区画整理（畑）1,092ha、区画整理（田）398ha



【地区の課題】

- 小区画・排水不良・急傾斜等のほ場条件や農家数の減少・高齢化に伴う労働力不足により、耕作放棄地の増加が懸念



急傾斜なほ場

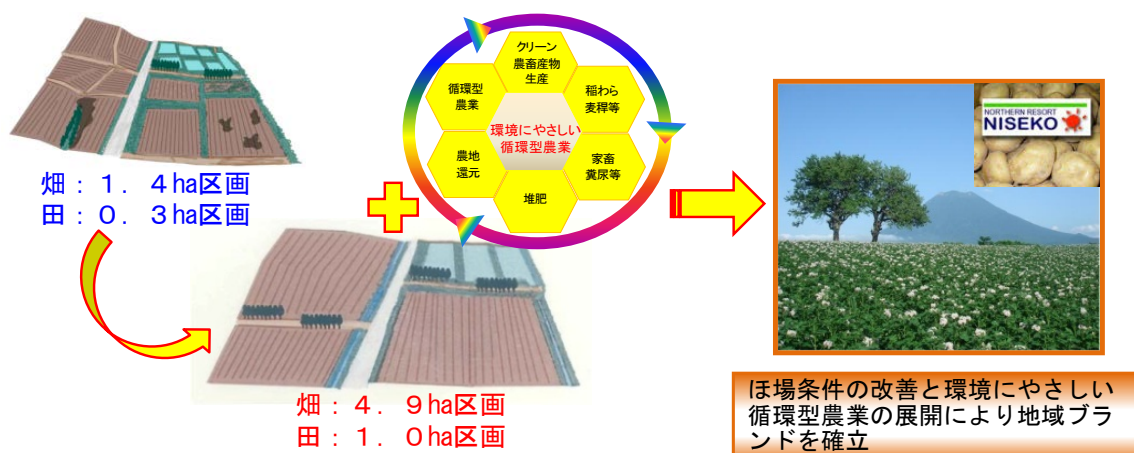


小区画なほ場



耕作放棄地

【事業実施により期待される効果】



平成26年度（新規）

国営かんがい排水事業

えにわきたしま

恵庭北島地区

（直轄）

1. 概要

- 排水機及び排水路を改修し、農地の湛水被害を解消することにより土地生産性の向上と農作業の効率化を図り、地域農業の振興と食料の安定供給への貢献を図ります。

なお、排水機及び排水路の一部については、治水事業との共同事業で整備します。

2. 計画内容

関係市町村：恵庭市

受益面積：1,636ha

主要工事：排水機 1箇所、排水路 6.7km



【地区の特徴】

- 水稲を中心に、水田の畑利用による畑作物・野菜類等の複合経営を展開
- 農商工連携による地域農業の活性化・6次産業化への積極的な取組



【地区の課題】



排水路護岸の劣化



排水機場の地盤沈下



農地の湛水被害

【事業実施により期待される効果】



排水路の整備



優良農地の確保

（流下能力を確保し被害を解消）（排水改良による生産性の向上）

【地域農業の振興】

- 農商工連携や6次産業化の拡大による産地化・ブランド化の推進

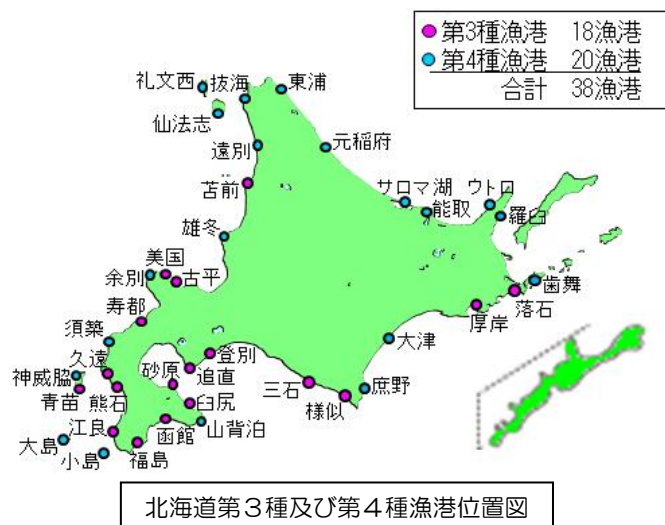
【食料の安定供給】

- 年間約19億円の農業粗収益を確保

7. 水産基盤整備事業

北海道の水産業は、全国の生産量の約3割、生産額の約2割を占め、我が国の水産物の安定供給に大きく貢献しています。その中でも第3種及び第4種漁港は、生産・流通拠点として広域的に利用されるなど、極めて重要な役割を担っています。

このことを踏まえ、平成26年度は、「国産水産物の衛生管理や安定供給のための基盤強化対策」、「災害に強い漁業地域づくりのための漁港施設の防災・減災対策」を重点的に推進します。



1 グローバルな競争力ある自立的安定経済の実現

国産水産物の衛生管理や安定供給のための基盤強化対策

安全・安心な水産物の安定供給はもとより、水産物の輸出促進を図るため、漁港における衛生管理対策や流通機能の高度化・効率化に資する施設整備を推進します。



EU輸出に対応した屋根付き岸壁における ホタテガイ陸揚げイメージ



衛生管理に対応した人工地盤の整備イメージ（ウトロ漁港）

2 安全・安心な国土づくり

災害に強い漁業地域づくりのための漁港施設の防災・減災対策

北海道周辺では大規模地震の発生が逼迫しているほか、冬期風浪等による越波などにより安全な漁業活動が確保されていない状況にあります。このため、大規模災害発生時における水産物流通機能や漁港利用者の安全確保などの防災・減災対策、冬期風浪時における漁船等の安全対策を推進します。

また、水産物の安定的な供給を確保する観点から、安全・便利で経済的な次世代インフラを構築するための漁港施設の長寿命化対策を推進します。



東日本大震災の津波による漁船被害
(大津漁港)

防波堤からの越波状況
(江良漁港)

老朽化により危険な状況の岸壁
(庶野漁港)

平成26年度（継続）

もといねっぴ

元稲府地区 特定漁港漁場整備事業

（直轄）

1. 概要

元稲府漁港は、オホーツク海沿岸中北部に位置し、ホタテガイ底びき網漁業を中心とした水産物の陸揚げ拠点であるとともに、オホーツク海域における避難拠点として重要な役割を担っています。

当地域では、国内で消費する水産物の安全性を確保するとともに、EU等輸出相手国での衛生管理基準を満たすため、漁港での衛生管理対策を早期に行う必要があります。

このため、安全・安心な水産物の安定的な供給を図るとともに、EU等への積極的な輸出促進に資するため、地域の衛生管理の取組と連携し、屋根付き岸壁や清浄海水導入施設等の衛生管理対策施設の整備を推進します。



2. 計画内容

計画箇所：元稲府地区（雄武町）

主要計画施設：－3.5m岸壁（改良）
305.5m

全体事業費：21億円

事業予定期間：平成24年度～平成30年度



野天でのホタテガイ陸揚げ状況



野天での陸揚げを余儀なくされており、鳥糞の混入等が懸念。



EU輸出対応の
ホタテガイ陸揚げイメージ



漁港背後のHACCP対応加工場

高度衛生管理対応の屋根付き岸壁等の整備により、ホタテガイ陸揚げ時の衛生管理向上が図られ、輸出促進に資する。

8. 官庁営繕事業

1 防災拠点となる官庁施設の防災機能の強化等

(1) 官庁施設の耐震化の推進

建築物の耐震化対策が緊急の課題と位置づけられている中、官庁施設が防災拠点としての機能を十分発揮できるよう、構造体のみならず設備、外壁・建具などの非構造も含めた建築物全体として総合的な耐震安全性を確保するための整備を実施します。

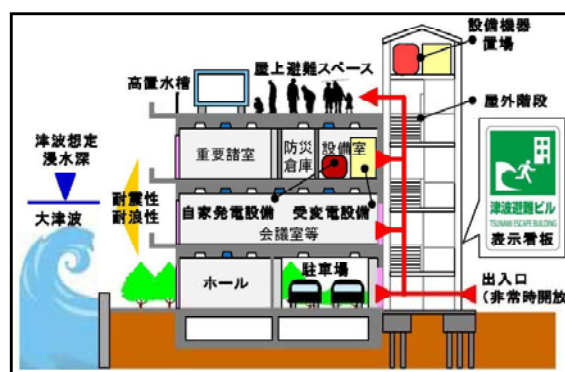
また、東日本大震災において大規模空間を有する建築物の天井が脱落した事案が多数生じたことから定められた新たな技術基準に適合させるため、大規模空間を有する官庁施設の天井について、地震時の天井耐震対策を実施します。

(2) 官庁施設の津波対策の推進

津波発生時の一時的な避難場所を確保するとともに、防災拠点としての機能維持と行政機能の早期回復を図るため、官庁施設における津波対策を総合的かつ効果的に推進していきます。



旭川地方合同庁舎 地震時落下防止特定天井改修



官庁施設における津波対策（イメージ図）

2 官庁施設の老朽化対策

老朽化した官庁施設が今後増大していく中、既存官庁施設の有効活用を図りつつ、来訪者等の安全の確保と行政サービスの円滑な提供に最低限必要な施設の性能を確保するため、劣化した外壁や漏水が生じている屋上防水及び不具合が生じている設備機器などの危険箇所や経年劣化が著しい部位等について、緊急的な改修等を行います。



帯広地方合同庁舎 外壁・建具改修

3 PFI手法の活用による官庁施設の整備

経営能力等のノウハウを活用し、低廉で良質な公共サービスの提供と、民間の事業機会の創出を図るため、PFI方式の活用により苫小牧法務総合庁舎の整備を行いました。

平成18年10月に施設の供用を開始し、引き続き維持監理業務にかかるサーベイランス（業績監視）を行っています。



苫小牧法務総合庁舎 外観写真

(参考) 北海道開発計画調査

北海道総合開発計画の企画、立案及び推進に必要な調査について、平成 26 年度は、北海道が強みとする「食」、「観光」、「環境・エネルギー」分野等における課題の解決方策の検討を重点的に実施します。

1 北海道産農水産品等の国際展開促進

【新しい日本のための優先課題推進枠】

道産農水産品・加工品の東アジア、ASEANへの速やかな輸出拡大を図るため、高付加価値化につながる鮮度保持輸送システムの構築、海外試食商談会等を通じた道産品ニーズの把握、販路の開拓、北海道経済界との連携による道産品ブランド力向上等に取り組みます。

北海道産農水産品等の国際展開促進のイメージ



2 北海道におけるインバウンド観光に資するスポーツ・体験型ツーリズムの推進

地域の観光資源を活かした観光需要の創出を推進するため、今後大きな需要拡大が見込まれるアジア等を対象として、スポーツ・体験型ツーリズムの推進を図るための受入環境の整備方策等について検討します。

北海道のポテンシャルを活かしたインバウンド観光の推進のイメージ



3 人口低密度地域における食品加工業の振興による活力ある地域づくり

北海道の人口低密度地域における活力向上を図るため、地域経済の核となり得る食品加工業の振興に着目し、人口減少下でも食品加工業が成長している地域の要因・条件分析、他地域への展開方策について検討します。

食品加工業の振興による活力ある地域づくりのイメージ



4 北海道の地域固有の資源・特性を活かした再生可能エネルギーの地産地消によるまちづくり

北海道における地域固有の資源・特性である再生可能エネルギーのポテンシャルを活かして、再生可能エネルギーの地産地消によるまちづくりの在り方について検討します。

水産業を中心とする再生可能エネルギーの地産地消によるまちづくりのイメージ



(参考) 平成26年度 道路の主な開通予定

【直 轄】

路 線 名	箇 所 名	開 通 予 定	
		区 間	延 長 (km)
北海道横断自動車道	ほんべつ くしろ 本別～釧路	うらほろ しらぬか 浦幌IC ～ 白糠IC	26.0
国道236号	なかさつないたいき 中札内大樹道路	さらべつ ちゅうるいたいき 更別IC ～ 忠類大樹IC(仮称)	16.7
国道278号	くこう 空港道路	はこだて あかがわ 函館IC ～ 赤川IC(仮称)	2.4
国道231・232号	るもい 留萌拡幅	るもい あけもとちよう るもい ふなばちよう 留萌市明元町 ～ 留萌市船場町	0.3
国道276号	いわないきやわ 岩内共和道路	いわない きようわちようほろに いわない きようわちようくにとみ 岩内郡共和町幌似 ～ 岩内郡共和町国富	1.1
国道 40号	さらきとまない 更喜内防雪	てしお とよとみちようかみ わつかない こえといむら 天塩郡豊富町上サロベツ ～ 稚内市大字声間村	8.2
国道231号	しよかん 暑寒防災	ましけ ましけちよういわおい ましけ ましけちよういわおい 増毛郡増毛町岩老 ～ 増毛郡増毛町岩老	1.0
国道238号	もんべつ 紋別防雪	もんべつ めま うえもんべつ めま うえ 紋別市沼の上 ～ 紋別市沼の上	0.6

【補 助】

《防災・安全交付金》

事業主体	事業実施箇所	事業名	事業延長 (km)	左記事業が含まれる社会資本総合整備計画	
				計画名	配分国費※ [百万円]
北海道	くつちやんちよう 倶知安町	こうげんひらふせん (一)ニセコ高原比羅夫線	0.8	防災・安全を支える道路ネットワーク強化	23,192
北海道	まつまえちよう 松前町	まつまえこうせん (一)松前港線	0.3		
北海道	びえいちよう 美瑛町	てんにんきようびえいせん (一)天人峡美瑛線	0.3		
北海道	あさひかわ 旭川市	えいりゅうばしどおりほか (都)永隆橋通外1	0.1		
北海道	えべつ 江別市	なかはらどおりほか (都)中原通外1	1.1		
北海道	りしりちよう 利尻町	くつがたせんほうしおしどまりせん (主)杓形仙志志鷺泊線	0.3	通路路合同点検対策推進による暮らしの安全・安心の確保	730
札幌市	さっぽろ 札幌市	おかだまこうちよう (都)丘珠空港通	0.1	～人に優しいまち～を実現する道路空間の安全・安心	4,371

《社会資本整備総合交付金》

事業主体	事業実施箇所	事業名	事業延長 (km)	左記事業が含まれる社会資本総合整備計画	
				計画名	配分国費※ [百万円]
北海道	のぼりべつ 登別市	くつたらこうえんせん (一)倶多楽湖公園線	1.4	道内各地域の交流・連携の深化に資する道路ネットワークの機能向上・生活基盤形成	12,088
北海道	おとふちよう 音更町	かみしほろしおしどまりせん (一)上士幌土幌音更線	1.7		
北海道	おびひろ 帯広市	やよいしんどうほか (都)弥生新道外1	1.1		
北海道	ほくと 北斗市	しんえきえきまえどおり (都)新駅駅前通	0.7	国際競争力強化等に資する道路ネットワークの機能向上	2,861
札幌市	さっぽろ 札幌市	れつれつぷかんせん (1)烈々布幹線	0.9	快適な市民生活と北海道経済の発展を支える道路交通ネットワークの構築	3,761
札幌市	さっぽろ 札幌市	やまもとかわしもれんらくせん (1)山本川下連絡線	0.8		
札幌市	さっぽろ 札幌市	かわむかいなだどおりせん (1)川向中通線	1.5		
札幌市	さっぽろ 札幌市	しんことに ばんどおり (都)新琴似6番通	0.3		
札幌市	さっぽろ 札幌市	とみおかどおり (都)富丘通	1.7		

※各社会資本総合整備計画への配分額であり、開通予定事業の額はその内数である。